

団長

アメリカ独立戦争に貢献したフランス革命の英雄、ラファイエット侯爵に因んだ街“ラファイエット”とはどんな所か、とても興味があった。数年前、来訪していたラファイエットの生徒と太田市の生徒とのレスリングの交流試合を見学し、表彰式に立ち会った。短時間ではあったが、その青年たちの素朴さが印象に残った。そして、実際に訪れたラファイエットは、やはり素朴で穏やかな街で、人々の温かさが溢れる所であった。

ラファイエット市のトニー・ロスワルスキー市長は、何度も太田市を訪れている知日家で、応接室で引率者を含めた全員のスピーチを聞いてくださり、太田市からのプレゼントがたくさん飾られている市長室で、生徒一人一人を市長席に座らせ、和やかに対応をしてくれた。

1988年に太田市とグレイターラファイエットが覚書に調印してから30年、ラファイエット市庁舎には今でも調印書が飾られている。この姉妹都市交流事業は、姉妹都市委員会の方々、ホストファミリーとなるの方々、見学を受け入れ説明を担当する施設など、多くの方々によって支えられていることを痛感した。

私が、学生時代に研修で訪れたヨーロッパの各国では、人々はそれぞれアイデンティティと誇りを持ち、自国の伝統と文化を重んじることが印象的であった。一方、アメリカでは、世界中から様々な人々が集まる巨大な多民族国家ゆえの多様性を受容するおおらかさや協力的な姿勢、率直な感情表現が印象的だった。ラファイエットの地ならではのフロンティアスピリットか、ゲストを歓迎する陽気なアメリカ人氣質なのか、どこへ行っても笑顔が返ってきた。

私を歓迎してくれたホストファミリーも心優しい家族だった。ホストファザーはいつも物静かに見守ってくれる紳士で、ホストマザーはとても気さくで、親友の家や友人たちとの食事会に連れて行ってくれ、会う人ごとに私たちを紹介し、家族同様に接してくれた。ホストファミリーは、私たちの好みに合わせて食事や休日の過ごし方を配慮してくれた。近所の子どもたちとも、ペットの子犬たちを通して交流することができた。

以前、ホストファミリーとして太田市の生徒を受け入れてくれたという夫婦に話しかけられたり、地元テレビ局からの取材が次の日のニュースで紹介されたり、街の人々が歓迎をしてくれているようだった。

今回訪問した中で、学校体験を中心に報告したい。学校体験入学では、生徒一人一人が現地の生徒とバディを組み、2日間の学校生活を過ごした。私はジェファーソン高校へ行ったが、秘書から学校の様子を伺ったところ、全校で約1,600人の大規模校で、生徒は多彩なコースの中から授業を選択できるそうだ。日本の高校では珍しいフォトグラフィーやデジタルデザインの授業があり、音楽のコースは歌、器楽、その他（音楽史やピアノ等）のコースのたくさんの授業の中から選択できる。また、外国語のコースが、中、仏、独、日、露、西の6か国あることから、選択肢の多さに圧倒された。時間割も曜日によって工夫されており、昼食も2回もしくは3回に分かれて食べるように設定され、カフェテリアの混雑緩和を図っているそうだ。校内はとても広く、引率の私にはバディがいなかったため、生徒で溢れかえる中、次の教室を見つけるのは非常に困難であったが、親切な生徒が案内してくれた。ここでも感じたのは、人の温かさであった。突然、授業見学を訪れた私に笑顔で手を振ってくれたり、話しかけたり、授業活動に誘ってくれて一緒に活動することもあった。秘書も教師も時間の許す限り、私の質問に答えようとしてくれた。とても気さくなラファイエットの皆さんに感謝している。

西ラファイエットにあるパデュー大学の見学では、ひとつの街のようなその規模の大きさと施設設備を見て、将来の夢を抱く生徒もいたようだった。今回、郊外のラファイエットから約100km、人口約86万人の州都インディアナポリスへと視野を広げて見学できたことは、大変有意義であった。現地で会った人たちからも勧められた人気の子ども博物館では、世界の歴史遺物の兵馬俑（中国）から現代アメリカ文化の展示物まで、様々な体験型展示物に実際に触れることで、アメリカの文化や歴史を中心に学ぶことができる施設で、皆興味津々で、体験を楽しんだ。

青少年期の多感な時期に海外で交流する場を持てることは、私自身、旧新田町の中国派遣事業の体験から、とても有意義だと思っている。今回の交流事業を通して生徒の成長が間近で見られ、とても感動した。日々の活動を通して、はじめ硬かった表情の生徒

に笑顔が増え、さよならパーティーでは、各生徒がホストファミリーを紹介した際、自然な優しい笑顔がみられた。これは帰国後、写真を整理する中でも感じたことである。映画「ホームアローン」にも登場する巨大なシカゴ・オヘア空港に到着し、日本へ向かうフライトを待つ際、「帰りたくない」と口々に言っていたことから、この滞在が皆にとってかけがえのない体験になったと実感できた。

今回の交流事業を通して、生徒たちはますます英語を身近に、アメリカへの親近感を持てたと思う。アメリカ人のゲストの意向に沿って積極的にもてなす心、日本の奥ゆかしいもてなす心、国は違えども人として通じる心は同じである。今後、アメリカ人のよい意味での積極性を見習い、国際化の世の中に自信をもって関わっていききたい。一方、改めて日本の良さに目を向け、日本の伝統文化について理解を深めて、海外に発信していければと思う。この素晴らしい体験が未来に向け、活力になることを願う。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝しています。また、この事業に関わったすべての方にお礼を申し上げます。サポートをしてくださった国際交流協会の方々、受け入れてくださったホストファミリーの皆さん、常に気遣ってくださった姉妹都市委員会の方々、快く送り出してくださいました職場の方々、そして、10日間一緒に過ごした副団長と生徒の皆さんに心から感謝します。ありがとうございました。

副団長

今回のプログラムでは、表敬訪問以外に様々な教育施設を訪問する機会に恵まれた。それらの施設のことを中心にこの報告書をまとめたいと思う。

まず West Lafayette の Purdue 大学はアメリカ屈指の工学系名門校。ここでは、広大な敷地の中にある立派なスポーツ施設、学生寮、講義室などを見学し、さらに充実したフィットネス施設の見学をした。生徒たちの中にはぜひこの大学で学びたいと思った者もいたようだ。街の至る所で大学グッズが売られている事や街の人たちが学生に限らず Purdue のロゴ入りシャツを着ていたり、愛車や愛犬にいたるまで Purdue のロゴを身につけていたりすることが、なかなか日本では見られない光景であった。群馬にも色々なローカルチームがあるが、チーム名すら知らない中高生が大勢いる。ローカルのチームに愛情を注ぎ、チームを街全体で応援することによって、地元愛が育つアメリカの風土は羨ましいと感じた。

次にコロンビアパークという小さな動物園。そしてウルフパーク。どちらも規模はそれほどでないが、教育プログラムが充実している。年間を通して、色々なイベントが企画されていた。説明をしてくれるガイドもプレゼン力の優れた人たちであった。自分たちの行なっているプログラムに誇りと愛情を持って取り組んでいる姿が印象的であった。しかし、動物に不慣れな生徒やアレルギーのある生徒には少々難ありだったかもしれない。

今回の訪問では高校生と中学生がそれぞれ2日ずつ学校生活を体験した。私は中学校に訪れたので、中学校について述べたい。始業はやや早く8:00に1時限目が始まる。朝は必ず The pledge of Allegiance (忠誠の誓い) で始まる。アメリカ国旗に向かい、手を胸に当てて、誓いの言葉を述べるのだ。そしてその日の行事連絡等を含めて、61分。その後、いわゆる休み時間は4分で、授業は53分。7時限目までである。給食はカフェテリアで3グループに分かれて順番に摂り、キャッシャーで親のクレジットカード番号を押して支払うシステム。携帯アプリで支払うシステムにさすがアメリカと感じた。生活困窮者に対しては補助があり、朝食も始業前に提供されるそうだ。日本の授業とは違い、教科書やノートのかわりにプロジェクターやタブレットの授業。そして先生の講義ではなく インターラクティブ重視の授業。教室の掲示物も教師の個性が溢れていた。

最終日に訪れたのはコロンビア子ども博物館。小さな子どもたちが興奮しながらあちこちの展示を見て回っていた。歴史的な展示から宗教、人権問題、現代のアメリカンポップ、スポーツにいたるまでの様々な体験型展示があり、太田市の生徒たちも大いに楽しんでた。

今回の滞在において、これらの多彩な見学コースをセッティングしてくれた姉妹都市委員会の方々には大変感謝している。さらに、我々の活動の様子を毎日 SNS にアップし

てくれていたので、街のショッピングモールなどでも、「日本から来た方ですよ。」などと声をかけてくれる人も少なくなかった。今後もこの事業で多くの太田市の中高生がアメリカ体験できる機会を与えられることを望む。そして、彼らが次の Lafayette 等姉妹都市からのよきホストになってくれることを願っている。

ぐんま国際アカデミー中等部 1年男子

僕は昨年オーストラリアに3週間ホームステイしました。その経験から、「もっと自分の英語力を試したい、他の国を自分の目で見て国際性を養いたい」と思っていました。

太田市の広報で姉妹都市への交換学生の募集を見たとき、「これだ!」と思いました。でもたくさんの応募者の中から自分が選ばれる自信は全くありませんでした。僕はそのことを上手く表現するのが苦手だったからです。だから、たくさんの応募者の中から選ばれたのが不思議なくらいです。面接では自分の中で今までで1番頑張ったので、選ばれた時には、本当に嬉しかったです。“グレイターラファイエットの交換学生になりたい”という気持ちが人一倍自分自身を奮い立たせてくれたのだと思います。

第1回の研修会で、派遣されるメンバーが集まったとき、選ばれたみんなの目が生き生きしていたので、とてもワクワクしました。そして研修を重ねる度、仲間とも打ち解けられ、アメリカへ旅立つ日が待ち遠しくなると同時に姉妹都市の代表としての責任感を強く感じてきました。待ちに待った出発の日はいにくの小雨模様でしたが、僕達の気持ちは晴れやかでした。11時間かけて到着したアメリカは、想像していたよりも遙かに壮大で、日本とは全く違う風景が広がっていました。

現地で1番楽しみにしていたのは、パデュー大学と2日間通うミドルスクールでした。パデュー大学は、アポロ11号で人類史上初の月面着陸に成功したニール・アームストロングの出身大学として有名です。それに、大好きなバスケットボールがとても強く、僕は初めて見たアメリカのバスケットボールコートにとっても興奮しました。大学の規模も大きく、自然豊かで伝統ある建物にも心惹かれました。ミドルスクールでは、バディと過ごしました。日本とは違い、自ら授業を選択します。僕のバディは体育などの教科は取らず、中国語などとても楽しい授業に出ていました。昼食をとる場所が、大きな体育館の中に造られたカフェテリアで、お金を払って食べていたのも驚きました。

食事と言えばホストマザーが作ってくれたバナナパンはすごくおいしかったです。食べ過ぎて怒られるか心配なほど、食べました。ホストファミリーはとても気さくで優しく、何より、僕達のことを優先して考えてくれました。素敵な家族がアメリカに出来たようで嬉しかったです。

また、訪問先のどこを訪れてもみんな歓迎してくれて、すべてが新鮮で、楽しくて、「帰りたくないな。」と自然に口をついて出てしまいました。だから、さよならパーティーは悲しかったです。感謝の気持ちを込めた余興のマジックを恥ずかしがらずに一生懸命披露しました。12名の仲間は、明るくて、頭も良くて、みんな僕を受け入れてくれました。そして自由の国が、僕を自由にしてくれました。いつの間にか誰が何を言おうと、自分の道を歩んで行ける決心ができました。この交換留学が、人生を変えるターニングポイントになったのです。

「誰にでもチャンスはある・・・」この素晴らしい派遣事業に関わったすべての方々へ今、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

太田市立南中学校 1年男子

空気。霽囲気。全てが懐かしく感じた。約一年半ぶりに故郷に戻ってきた。そう言っても過言ではない。私は父の仕事の関係で、約三年間ラファイエットに住んでいた。住み始めてすぐは、帰りたくてしょうがなかったものの、半年ですぐに慣れ、帰国する時には嫌でしょうがなかった。そんな故郷にもう一度帰ってこることができ、私は本当にうれしかった。私が一番この留学で心に残ったこと、それはホストマザーと出会えたことだ。初日に、ホストマザーは一人に一つずつ部屋を提供してくれて、各自で好きに使っていいと言ってくれた。また、ほぼ毎日私たちの服を洗ってくれた。全てたたくくれたり、時には二回に分けて洗濯をしてくれたり、とても親切にしてもらった。さらに、

ラファイエットにあるいろいろなアイスクリーム屋に連れて行ってもらった。いろいろなアイスを食べ比べしたり、どの店が一番おいしかったか話し合ったりしたことは、今でも鮮明に覚えている。ホストマザーは、私達を家族の一員のように接してくれて、私はその温かさをとでも感じた。また、ホストマザーの息子や、ホストマザーのお兄さんと会った時も、日本に興味を示してくれ、私達が外国人なのにも関わらず、まるで友達のように接してくれた。この心優しいホストファミリーには、感謝の気持ちでいっぱい。

また、自分でやりたかった事が達成できたのも、強く印象に残っている。そのやりたかった事とは、アメリカで出会った人たちに日本の給食について興味を持ってもらうということだ。アメリカの給食は日本と少し違い、簡易的なものが多く、学校で作るという事があまりない。そのため、日本の全て手作りの給食に興味を持って欲しかったのだ。なので、二日間通った学校でサポートしてくれたバディに写真を見せてみると、すごく感心してくれた。彼は、「アメリカの給食もこのような心のこもったものになるといいね。」と言っていた。また、体育の時間で仲良くなった友達にも話をしてみたところ、「ますます日本に行きたくなかった。」と言ってくれた。彼は、日本のカプセルホテルに興味があると話してくれた。最近、テレビで日本を紹介する番組が多くなったそうで、その中でカプセルホテルを見て、とても関心を持ったと言っていた。私が前三年間ラファイエットに住んでいた時は、あまり日本の事を知っている人がとても少なかったが、今回の留学で訪れた学校にはたくさんの方が日本に興味を持っている人がいて、とても嬉しい気持ちになった。

さらに、この十一日間ずっと一緒に過ごした十一人の仲間たちも忘れられない。私は、この中で最年少だった。なのに、仲間たちが私に対してとても優しく接してくれた。そのおかげで、留学中仲間たちと過ごす時間がとても楽しく感じられた。また、仲間達と仲良く出来たおかげで、すぐにホームステイ先でも馴染め、ホストファミリーともすぐに親しめた。今でも、その仲間達に会いたくなる時がよくある。このような機会にできた素晴らしい仲間達は一生大切にしていきたい。

最後に、この留学を支援してくださった太田市国際交流協会の職員の方々、現地で私達の行動をサポートしてくださった Greater Lafayette Commerce のみなさん、引率者として私達の行動を支え、最初から最後まで全力を尽くしてくださった団長、副団長、長い間私達のお世話をしてくださったホストファミリーの方々、一緒に留学をした仲間達、このような素晴らしい機会をくださった全ての方に心から感謝を伝えたい。

本当にありがとうございました。

ぐんま国際アカデミー 中等部 1年女子

11時間と言う長いフライトの末アメリカにつきました。今年は日本が例年にない暑さと言うこともあるかもしれませんが、思ったより、暑くなくカラッとしていました。私がまずホストファミリーと会ったときに驚いた事はいきなりベジタリアンだと言われたことです。私は、アメリカに来たので規格外の大きなステーキや、ハンバーガー等の食べ物が食べられると思っていたので正直少しがっかりしましたが、同時に日本ではなかなか接する機会のないベジタリアンはどのような食事をしているのかと興味もわきました。1日目には豆腐とナスを使ったタイカレーを作ってくれて、ナス嫌いを克服することができた位に美味しかったです。家にお客さんが来たときには、巻き寿司を作り、材料はベジタリアンだったので野菜や豆腐などでしたが、アボガドを入れたためトロに似た食感でこれもとてもおいしかったです。その時に、日本ではどんな材料入れて巻き寿司を作るのとホストマザーに質問され、日本に興味を持ってきているのだなと嬉しくなりました。また、そのお客さんと初めて会ったときに初対面にもかかわらず、握手をして「アメリカを楽しんでね！」と言われたり、帰り際にはハグをしたりアメリカの人たちのフレンドリーさに感動しました。

その時に来た友達とは、即興でダンスパーティーをして、SNSのアプリで遊ぶなどその日に初めて会った人とは思えないほどたくさん笑って楽しい時間を過ごすことができました。

また、どの施設に行っても現地の人たちは私達を快く歓迎してくれて嬉しかったで

す。警察署では、ガイドをしてくれたマーカスさんはカメラを向けたら、すぐにポーズをとってくださり、うれしくなりました。またとくに、西ラフィエットの市長さんとは一人一人がこの留学に対する抱負やラフィエットに対する質問などをする時間がたくさんあったこともあり、後日犬のイベントで偶然会った時には私のことを覚えていてくれました。その時も、「ラフィエットを楽しんで行ってね。」と言ってくれて、とても貴重な経験をしているなど改めて感じました。スーパーに行った時には、小銭の使い方がわからずに聞いたら、必要な分のお金だけでなく小銭の使い方を一から教えてくれたこともありました。

私が、この留学で1番に学んだ事は、アメリカの人々の多様性です。例えば、私のホストファミリーは、ユダヤ教で、その歴史を熱く語っていたり、家にはユダヤ教のお祭りの飴があったりして、いろいろな文化の人がいるなど思いました。また、ホストファミリーの娘さんとは同学年で学校でも案内をしてもらったのですが、帰ってきた日の夜家で、学校にはゲイの人がいるのだと言う発言に衝撃を受けました。しかし、日本ではそういった事は、あまり公に言わないので多様性だけではなく、お互いの特徴を個性と認め、尊重しあっていくという文化が日本よりもあるのだなと思いました。そういった文化も学びつつ、私は日本の良さを再発見することが出来ました。とくに、それを感じたのは水です。蛇口をひねって日本ほどお水が美味しい国はないなと思いました。

私は、この留学でアメリカの魅力を知ることが出来たとともに、日本の良さも再発見できました。メールのやり取りを続けている友達もいて、そのような関係を現地の人と持つことが出来て本当に良かったです。この留学で学んだことは私にとって一生の思い出になると思います。この企画を立ててくださった太田市の方、団長、副団長の先生、団員の頼もしい友達、現地で案内してくださった方々、本当に話しきれないほどの思い出と体験をありがとうございます。

県立中央中等教育学校 2年男子

日本に帰ってきて2・3日いや、それ以上だろうか。私は強烈なアメリカロス（ラフィエットロス）にかかっていた。部活動に行っても脳裏に浮かぶのは、アメリカで食べたあのバナナアイスと、美しい風景ばかりである。それほど大きな印象を僕に与えてくれたこのラフィエットへの留学で、私は多くの人に支えてもらったと思う。6月30日のはじめての顔合わせの日、僕は何とも言えない不安感に襲われていた。それから2ヵ月間、週に1回会いながらもなかなかメンバーの距離がつかないとは思えなかった。2回目の打ち合わせに前回の派遣者の方々がきてくださった。その時「とにかく仲良くなるのが一番だよ。特に男子と女子とかね」と言われたのを鮮明に覚えている。その時はまだ、信じられなかったけれど、ラフィエットにいて本当にその言葉の意味を感じさせられた。

一緒にモールでショッピングをしたり、ご飯を食べたり、英語が分からなかったら助け合ったり・・・色々な場面で僕は友達に支えてもらった。ラフィエットにいた、たった10日間で僕たちはかけがえのない友達になることが出来た。この11人の友達でなかったら、ラフィエットをこんなにも楽しむことはできなかったと僕は思う。

僕は現地の方にもたくさん支えてもらったと思う。僕はピーナッツアレルギーだ。みなさんもお存じのようにアメリカは、あらゆるところにピーナッツが使われている。僕の出発前の唯一の不安はアレルギーであった。しかし、アメリカに着いて私の不安もなくなった。日本では、僕の経験上ではあるが、「私はアレルギーです」と言っても「じゃあどうすればよいですか？」という反応をされることが多い。しかしアメリカでは、例えばアイス屋さんなら「分かりました。新しいスクーパーを用意します」など具体的な反応を示してくれることが多く、非常に安心することが出来た。日本よりもアメリカはピーナッツアレルギーの人口の割合が多いそうだ。このような環境が、アレルギーでも楽しく食事ができるようにしてくれたのだと思う。ホストマザーは大好き物のピーナツバターサンドを食べられず、申し訳なかったと思うが、外食するたびにお店の人に丁寧にアレルギーの話をしてくれて非常に安心させてくれた。僕は、ホストマザーをはじめとする現地の人々にも支えられたと思う。

前述のエピソードにもあるように、現地の人々は本当にフレンドリーだったと思う。日曜日、私たちはホストマザーとともに教会へ行った。日曜日には近くの住民などが教会に集まりお祈りをするのだという。私たちも参加させてもらった。そこには老若男女問わず多くの人々が集まっていた。勝手もわからず立ちすくんでいた僕たちのもとにある一人のおじいさんが話しかけてきた。その方は太平洋戦争中東京湾上でポツダム宣言を聞いた元アメリカ軍の軍人の方だった。よく来たねえ、と握手をしてくださった手には外見からは想像もできない力強さがあつたのを今でも覚えている。その後も多くの人々が僕たちに話しかけてきてくれた。もう何人の人と握手をしたのか分からないくらいだった。多くの人と僕たちは話をした。日本人も初対面の人にこれくらいフレンドリーに話しかけられるようになればなど、その時思った。正直お祈りの歌の意味は分からなかったが、今でもメロディは覚えている。それくらい大きな印象を与えてくれた経験だった。

とても内容の薄そうな言い方だが、ラフィエットは本当に良い街だ。それは僕がこれまでに書いたこと、他の派遣者が書いたことを読めば明らかである。そして実際にラフィエットに行くことでここには書ききれなかったさらに多くの事を学べると思う。僕はラフィエットが大好きになった。宝物のような10日間を与えてくれた太田市役所の方々、両親そして何より、11人の最高の友達に感謝を伝えたい。本当にありがとう。

市立太田中学校 2年男子

私はこの派遣事業でコミュニケーション能力が上がり、自分の英語力も磨くことができました。最初の研修会では他の学校から来た知らない11人と顔を合わせました。その時は習い事や兄弟の関係で見たことのある人もいたが話したことがない人がほとんどでした。だからこれから皆と仲良くなれるか心配でした。しかし研修会をしていくうちに余興の練習などもあり皆と話すことが多くなりました。そして出発の日皆ワクワクしながらバスに乗りました。皆とはバスの中でずっと話していました。アメリカに着いても一緒に行動することが多かったのでずっと話していました。現地では前日の出来事を話したりその日の面白かったことの話をとくさんしたりでき、研修会よりも仲が深まりました。また現地で行動をするとき一人になっている人はいませんでした。泊まった家にも二人で泊まったのでその子とも仲良くなることができました。ほとんどの家が複数人で一つの家に泊まったので一緒に泊まった子とも、とても仲良くなれました。また英語でコミュニケーションをとることで自分の言いたいことを伝える能力も上がりました。ホストファミリーと話すときもたまに言葉が出てこなかったり、うまく伝わらなかったりすることがありました。そんなときはジェスチャーを使ったり、一緒に泊まった友達に手伝ってもらったりしました。このようにアメリカの事だけではなく日常生活でも必要なスキルがたくさん身につきます。出発した日は人生で一番長い日になりました。なぜなら8月7日に出発して同じ日の朝に現地に着いたからです。現地に着いたときはとても不思議な感覚でした。またコミュニケーション能力だけではなく英語力や外国人の日本の印象なども知る事ができました。そしてアメリカの文化で一番印象に残っているのは飲み物がとても大きいことです。ファストフード店に行くとミドルサイズを頼むと日本のファストフード店のラージサイズとほとんど一緒に飲み干すのが大変でした。またアメリカの店員は注文するときに聞き取れなくて困っても優しく接客してくれたので、アメリカ人の少し怖いというイメージが変わりました。ホストファミリーもとても優しく接してくれて忘れられない人となりました。ホストファザーは遊ぶ時などは友達のように遊んでくれてホストバディーはいなかったがとても楽しい時間を過ごせました。ゲームをするときなども一緒に遊んでくれていい思い出ができました。ホストマザーはおすすめの場所や美味しい料理などを作ってくれました。また犬がいて犬も人懐っこかったのでも楽しかったです。ホストファミリーは第二の家族のような人となりました。帰るときにはずっとホストファミリーと過ごしたかったと感じました。帰るときにはとても悲しいという気持ちがありましたが、いい経験ができたといううれしさもありました。最後にこの派遣事業に関わった市役所の方、アメリカで案内してくれた方、家に泊めてくれたホストファミリー、分からないことがあったら教えてくれた引率の先生そしてなにより仲良くしてくれた11人の友達にありがとうと言いたいです。今回の派遣事業では学ぶことが多く楽しかったです。ありがとうございました。

ました。

市立毛里田中学校 3年女子

この留学では、貴重な経験をすることができました。1つ目は、コミュニケーションがとれるようになったことです。私は留学に行く前は、人と話すことが出来ず、人見知りでした。そんな時、この留学制度を知り、挑戦してみようと思い、応募しました。アメリカに行く前は、すごく緊張したのですが、いざ行ってみると、緊張したことを忘れるぐらい楽しむことができました。私がホームステイをさせていただいたお家は、子供が4人いる6人家族で、とても賑やかなお家でした。子供がいるお宅にホームステイするのは、初めてだったので、とても楽しみでした。行ってからというもの、1日目は、うまくコミュニケーションがとれず、あまり喋れなくて、すごく申し訳なくなりました。どうしようかなあと困っていた時、子供達から、話しかけてくれて、とても嬉しいと同時に、ありがとうと思いました。そして、ゆっくり喋ってくれるので、すごくわかりやすかったです。こんな私にも、親切に声をかけてくれて、すごく感動しました。日本にはない優しさを感じました。それからは、午前中に町を散策して、午後に家に帰るのが楽しみで仕方ありませんでした。家に帰って、まずは、ゲームをして、ご飯を食べて、ゲームをして、映画を見て、おしゃべりして、お風呂に入って寝るという、すごく忙しくも、充実した10日間でした。休みの日には、みんなでフェスティバルや教会に行ったり、自転車に乗って町を散策したり、水風船をやり、みんなでビチョビチョになった事を覚えています。日常的な生活と一緒に送れて、楽しかったです。10日間という時間は、あっという間に過ぎていきました。もっと一緒に居たいという気持ちになり、帰ってきたくなかったほど、楽しかったです。

2つ目は、英語力をもっと鍛えるべきだということです。今回の留学生は、とても英語が堪能な生徒が多かったのですが、私は、あまり英語を上手に話すことが出来ませんでした。ホストファミリーに、日本の食べ物について、話す時、うまく伝えられませんでした。そして、訪れた場所で、説明していただく機会があったのですが、あまり聞きとれず、とても自分が未熟に感じました。なので、日本に帰ってから、もっと英語を勉強しなければならないと感じました。そして、もっとスムーズに物事を伝えられるように、英語にも力を入れたいです。

日本に帰ってから、しばらく経ちましたが、まだアメリカでの生活が忘れられません。未だに、思い出して涙ぐむこともあります。今回の留学では、それほどの思い出を作ることができました。本当に、言葉では、言い表せないほどの思い出をいただきました。そして、この留学で学んだたくさんの方をこれからに生かしていきたいです。また、私の課題でもあった人見知りも克服できて、すごく嬉しいです。これからは、色々な人達と話していきたいです。そして、現地でお世話になった方々、ホストファミリー、引率の先生、この留学の機会を作っていただいた方々に感謝します。本当にありがとうございました。

市立太田中学校 3年女子

飛行機を降りれば、目に入るのもの聞こえるものすべてが英語。そこにはアメリカの国旗が高々と掲げられていて、まるで私のこれから始まる10日間の旅を応援してくれているようであった。

事前研修は何度もしていたし、心の準備はできているはずだった。でも両親と別れる市役所では、私の心の中は期待ではなく不安な気持ちが占めていた。他人の家に10日間住まわせて頂くだけでも緊張するのに、言葉や文化が違う海外の人となら尚更だ。誰か同じ家だったら良かったのにと、とても不安だったのを覚えている。

しかしそんな私の心配は杞憂に終わった。ホストファミリー達は出会った瞬間からずっと私に優しく対応してくれたからだ。四人とペットの犬が私のファミリーである。彼らとはシカゴ空港から三時間ほどバスで走ったラフィエットの図書館で対面した。緊張した面持ちの私に対し、ファミリーはみんな満面の笑顔で迎え入れてくれた。優しい笑

みにほっとして、気持ちが軽くなった。また、家へ向かう車内で質問にうまく英語で答えられず、たどたどしいものになっても私の話を理解しようとしてくれた。本当に嬉しくて、いつのまにか不安は消え去り、期待と希望で私の胸は膨らんでいた。

ファミリーデーでは日本文化をたくさん伝えることができた。折り紙で風船や飾り箱などの作り方を説明すると、とても喜んでくれた。風船に空気を入れるところなど難しい工程も、ジェスチャーを交えて説明することで最後には作り方を覚え、様々な色で作れるようになっていた。私はファミリーと一緒に折り紙を作り、心が通った気がして暖かい気持ちになった。

また、街の中心部であるダウンタウンのフェスティバルへ連れて行ってもらった。そこで私は日本語を発見する。それは日本食の店で、たこ焼きを買ってファミリーみんなで食べた。しかし、アメリカではタコを食べる文化があまりないという。中にタコが入っていると話すと、「Octopus?!」とみんなとても驚いていて、文化の違いを感じた。けれど味は気に入ってくれて、日本に行ってみてみたいとまで話してくれた。そこから話題が広がり、たこ焼きが有名な大阪のこと、日本の観光名所や私の住む太田市のことまでたくさん日本について伝えられた。私は一生懸命に聞いてくれるファミリーに応えるために必死だった。そんな私の英語が全て伝わっていた自信は正直あまり無いけれど、「英語を使う」ということは本当に良い経験になったと思う。それと同時に私はもっと勉強しなくてはならないとも感じた。そしていつかまたファミリーと再会できた時、今度はもっとたくさん会話できたらと思う。その目標を叶えるためにも英語の勉強を更に続けていきたい。

アメリカでは沢山の場所に行かせていただいた。すべてが私の記憶に深く刻まれているが、特に現地の中学校に通わせていただいた2日間は忘れられない。学校にはいろいろな人種の子供たちがいた。「アメリカは移民の国」であり、たくさんの人種の人々が暮らしているということは前から知ってはいたが、実際に目の当たりにして、ここはアメリカなのだということを実感し、圧倒された。今まで自分が生きてきた世界がどれだけ狭かったのかを身にしみて感じたような気がした。そして、世界を見るということの大切さを感じ、国際的な感覚を身につけるためにも世界にもっと出ていきたいと思った。

日本に帰ってきて私はボランティア活動へ積極的に参加したいと考えている。なぜなら、私の研修は沢山の人の支えられて成り立ったものだったからだ。今度は私が皆さんへの感謝の気持ちをボランティアといった活動で返し、私も誰かのために動ける人間になりたいと感じたのだ。短い時間ではあったが、アメリカで体験したことは一生忘れないであろう大切な宝になり、私の考え方を大きく変えてくれた。

ぐんま国際アカデミー 高等部 1年男子

この事業に応募したきっかけは、母親からの提案だった。当時の自分は留学などに興味はあったものの、この留学に参加するには書類審査や面接などの様々な工程があると知った私は一度断った。しかし母親から説得され、書類審査だけ受けてみることにした。あれだけ留学に反対していた私だったが、書類審査に受かった時にはアメリカに行けるかもしれないと思い、少し期待していた。そして最後の面接試験に合格したら、一気に夏休みが楽しみになった。

出発当日、朝5時に太田市役所に集合し、みんなでバスに乗って成田空港に向かった。そして成田からアメリカのシカゴ・オヘア空港に飛び立った。約12時間のフライトを終えると、インディアナ州にあるグレイターラフィエットまでバスで向かった。到着したら、ホストファミリーと合流し、初日は終わった。2日目以降は、みんなでバスに乗って色々な場所を訪れた。グレイターラフィエットの市長表敬訪問をしたり、富士重工の工場であるSIAや、警察署、動物園、ショッピングモール、インディアナ州の官邸など、本当に沢山の場所を訪れたりすることができた。特に印象深かった場所は、Wolf Parkと言うオオカミが飼育されている公園である。ここではとても広い自然の中で、野生に等しい環境で飼育されているオオカミやキツネやバイソンなどを見ることができた。敷地内には

大きな池や草原があり、土地の広大さにとても驚いた。このような広大な自然の中で動物を観察するのは、アメリカだから出来ることだと思った。ホームステイでは、日本ではあ

まりない、アメリカの文化を体験することができた。洋食や庭のプールに入ったり、靴のまま家に上がったり、日本では体験できないことを体験することができ、とてもいい経験になった。週末にはインディアナ州の州都であるインディアナポリスに連れて行ってもらい、買い物を楽しむことができた。ホストファミリーはとても優しい人で、夕食後には毎日市内のアイスクリーム屋に連れて行ってもらった。

アメリカで色々なことを学ぶと同時に、日本の素晴らしさも実感することができた。その日本の素晴らしさは三日目に訪れた、Subaru of Indiana Automotive (SIA)で感じる事ができた。私は日本の企業が外国で大規模な工場を持っていることの素晴らしさや、工場内で外国人がみんな協力し合っていて、日本の技術や方法を使って車を製作していることに感動した。日本とアメリカの両方に言えることは、どちらの国の人もとても優しいと言うことだ。私が Jefferson High School という地元の高校に体験入学したときに、日本から来た私に対してみんなはとても親切に接してくれた。学校以外でも、近所の人や、店員さんなど、ほとんどの全員の人が優しくしてくれて、人の温かさを感じる事ができた。

今回の留学では、自分の英語がどの程度通用するのか知ることができた。私は小学生の時から英語を多く使う学校に通っている。そのため自分が海外でどの程度通用するのか興味があった。実際にアメリカで自分の英語は通用したものの、相手の英語は完璧に聞き取ることができなかった。そういった面でもこの留学はとてもいい機会だと思う。

最後に、このような素晴らしい機会を設けて頂いた太田市に感謝します。今回の留学をいい経験として終わらせず、今後の自分に生かしていきたいと思います。そしてこれからも英語の勉強に励み、将来は英語を活用できる仕事に就きたいです。今回の留学は、一生忘れられない思い出の一つになりました。本当にありがとうございました。

ぐんま国際アカデミー 高等部 1年女子

集合時間が迫り、私は朝から家で忘れ物はないかと焦っていた。大きなスーツケースと不安を抱え車に乗り込んだが、なぜか今日から十日間アメリカに留学に行くという実感が湧かなかった。待ち合わせ場所に着き母に「楽しんできてね！」と送り出してもらったところでやっと実感が湧いた。事前にホストファミリーと連絡を取り一人での滞在とわかっていたが、小学生のオーストラリア留学を経験していたため、それに関しての不安はなく、初めてのアメリカ上陸に緊張していたのだ。シカゴ空港につき初めに感じたことは喜びと疲れだった。12時間ほどのフライトで疲れた体には、シカゴではまた一日今日が始まるということが考えられなかった。ホストファミリーに初めて会ったとき、とても優しいそうなお家族で安心した。ホストファザーの愛車だというスバルの車に乗り込み自己紹介から会話が始まった。少し外れにある家に到着したときに家の土地の広さにさすがアメリカと感動した。見る限りはすべて土地、深さ160cmほどの大きいプール、お姫様の部屋のように装飾されたゲストルーム、何台もの高級車、日本では考えられないくらいに豪華な家だった。一人で滞在するという事に少し不安を抱えていたが、優しい家族のおかげでホームシックには全くならなかった。それから毎晩午後の4時から午後の9時くらいまでプールでのんびり優雅な時間を過ごしていた。時にはプールに入りながら、ピザやチキンを食べたこともあった。ご飯は思っていた以上にジャンキーですごくおいしかった。バクバクたくさん食べ、日本では食べられないものもたくさんチャレンジしてみた。日本食のレストランに行ったとき、お寿司を頼んだのだがアメリカンな寿司かと思っていたら、見た目も味も日本のお寿司と同じで驚いた。少し変わったお寿司を期待していたのだ。また、行きたいところにもたくさん連れて行ってもらった。ショッピングが好きと言っていたのを覚えていてくれていて、いろいろなところを調べて連れて行ってもらった。一日の体験の後にアイスクリーム屋さんで連れて行ってもらい、とっても大きいバナナパフェのようなものを食べた。とてもアメリカンな味で本当においしかった。毎日、行き帰りの車のなかでは私の携帯からJPOPなどの日本の曲を流させてもらった。音楽好きの家族だったため、喋らなくても音楽でつながっているような気持ちになった。ホストマザーはよく、これはどういう意味？と意外と無茶な質問をしてきたが自分なりに精一杯答えると、すごくいい曲ね、この歌大好き！と言ってくれたことがすごく嬉しかった。逆にたくさんのお名曲を教えてもらった特にビートルズが多く、私もとても気に入った。毎日が本当に充実していて帰国する時には次は絶対家族を連れてこようと思った。

本当に沢山の方に迷惑をかけ、支えてもらい恵まれた環境で楽しんでこられた。この経験は鮮明に私の心に残り続け、思い出すたびに幸せな気持ちになれる本当に大切な思い出になった。太田市の代表として、こんなに恵まれた経験をできて本当に感謝する。

ありがとうございました。

県立太田女子高等学校 1年女子

はじめに、私を交換学生としてアメリカに行く機会を与えていただき本当にありがとうございました。私はアメリカで沢山の事を学びました。シカゴに到着したとき、自分の英語力に自信がなかったためすごく不安な気持ちでアメリカに入国しました。入国審査も、緊張してしまいあまりスムーズにいかないこともありましたが、なんとか無事審査を終えることができました。シカゴからラフィエットに向かう途中で「バーガーキング」に寄り、注文を自分ですることになりました。不安でしたがなんとか頼みたいものを注文することができました。初日から、自分の語学力の低さに動揺してあまり充実した1日を過ごせませんでした。しかし、仲間にも勇気付けられて、次の日から心を改めて頑張ろうと再確認することができました。その後の何日間かは、観光スポットに行ったり、警察署や市役所など普通では入ることのできない場所に行ったりすることができて、すごく貴重な体験をできたと感じています。行く場所行く場所で、すべて英語での説明だったため、どんなことを言っているのか全て聞き取ることはできませんでした。知っている単語を探して言葉を繋ぎながら聞きました。理解できないことも多々ありましたが、わからなかったらメモをして調べたり、周りの人に聞いたりして補うことができ、行動力の向上を図れたのではと感じています。

アメリカの高校に2日間通えたことは、私の2週間の留学の中で1番成長を感じた、貴重な2日間だと思います。ホームステイでは高2の先輩2人と同じになり、英語を先輩方に頼りがちになってしまっていたため、自分の英語のコミュニケーション力を確かめる絶好の機会となりました。

高校に着いた瞬間、自分1人で大丈夫なのかな？会話できるのかな？とすごく不安な気持ちで臨みましたが、バディの方がすごく親切な方だったので楽しい2日間になりました！その2日間で1番びっくりしたことは、アメリカの授業と日本の授業の仕方の違いにびっくりしました。1人1台ずつタブレットがあって、タブレット1台で授業を受けられるところが、すごく魅力的でした！その1台に、教材とノートがおさまっていて手軽だなと感じました。実際に体でアメリカの授業を受けたことは一生のうちのすごく貴重な体験だと改めて思いました。そして、ラフィエットで1番お世話になったホストファミリーには心から感謝しています。毎朝早い時間に待ち合わせ場所の大学に送っていただき、迎えも忙しい中来てくれて本当に感謝しかないです。食事も毎日美味しく、日本に帰ってきてホストマザーの料理が恋しくなるほどホストファミリーを大好きになっていました。ホストマザーには、買い物やスーパーに何度も連れてってもらいお土産や、お菓子を買いました。ホストマザーからは、アメリカのお金のセントの使い方を教えてもらいました。そして、ホストファミリーの孫であるアイザックさんとホストマザーと一緒に、アメリカの映画館に連れていってもらいました。全てが英語の映画を観て、わからないなりに知っている単語や映像を照らし合わせながら、自分なりに楽しむことができました！約10日間本当にお世話になりました。

そして、この最高の14人でラフィエットに行けたことが本当によかったです。この14人だったからこんなにも楽しくて、勉強になる、留学だったのではないかと思います。この経験は一生忘れることのない留学となりました。改めてこのプログラムを企画していただき本当にありがとうございました。14人の仲間と太田市役所の職員の方々に出会えて本当によかったです。大好きです。ありがとうございました。

ぐんま国際アカデミー高等部 2年女子

今回の交換留学は、とても充実した10日間となりました。たくさんの方に支えられながら、毎日が楽しく、貴重な経験をさせて頂きました。その中でも一番感じた事は、人

と人とのつながりの大切さです。今回の旅は、私を合わせて12人の派遣学生と二人の引率の先生のもと、アメリカでの研修を行いました。

今回の研修では、12人のリーダーとして行かせていただきました。事前研修から、余興を決めたり、スピーチの練習をしたり、皆が協力して話し合う事が出来ていたと思います。最初は距離間のある関係ではありましたが、いざアメリカに行くと、距離感はだんだんと縮まっていき、帰国後は、性別や年齢を問わず、お互いの距離は無くなっていました。私の学校は、小中高一貫校で、他校との交流はあまり無いため、11人の素敵なメンバーに出会えたことに本当にありがたく思い、帰国後も皆に会えない日がとても辛く、寂しい思いになりました。その時に感じました。アメリカでの10日間がどれだけ充実していたか、そしてどれだけ多くの人に助けられていたか、本当に幸せを感じました。また、今回お世話になったホストファミリーも、とても優しく、たくさんのわがままを聞いていただきました。私たちは、女子三人で泊まらせていただきました。買い物が好きだった私達は、週末には大きなショッピングモールに連れて行って頂き、思う存分に買い物も出来ました。毎日朝食、夕食と美味しい料理を作ってくださり、私達に本当の子供のように優しくしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の旅では、スバルの工場、パデュー大学、動物園、警察署、裁判所、博物館などたくさんの場所に行くことができました。ラファイエット市、西ラファイエット市の市長さんにもお会いすることができ、とても貴重な体験をたくさんさせて頂きました。各訪問先でそれぞれのスタッフの方々が優しく、丁寧に案内をしてくださり、とても勉強になりました。それと同時に、ラファイエット市の様々な文化を実際に体験することができ、とても楽しく学ぶ事ができました。ピザやハンバーガーなど、アメリカの料理もとても美味しかったです。現地のスタッフの方々が全てを手配してくれて、多忙なスケジュールではありましたが、その分、たくさんの場所で新しい発見をすることができました。どんなに多忙な中でもその場で体験しているときはもちろん、移動中のバスの中でも笑顔が絶えず、とても楽しかったです。また、二日間、現地の高校でバディのシャドーウィングを行いました。大きな校舎、タブレットを使用した授業であったり、大きなカフェテリアだったり日本との学校とは違う点があり、とても驚きました。授業の内容としては、あまり難しくはなかったのですが、中でも驚いたのが、ダンスの授業です。ダンスのみならず、歌も習い、発表会に向けての練習中でした。日本ではこういった授業は無く、踊る事が大好きな私にとって、とてもうらやましかったです。

たくさんの事を学び、たくさんの方に支えられ、本当に幸せな時間を過ごすことができました。自分の英語力を活かし、たくさんの人との交流を深め、たくさんの新たな出会いがありました。そんな中でも、引率の先生、そして11人の仲間にとっても感謝しています。どんな時でも協力し、最高の思い出を共に作る事ができた最高の仲間です。今回の経験を活かして、今後もより多くの経験を積み、それを活かしていきたいと思っています。太田市の姉妹都市であるラファイエット市について知り、文化を肌で体験する事ができる、貴重な体験をすることができました。今回、この交換留学プログラムに協力してくださった皆さん、たくさんのお出会いに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な体験、幸せな時間をありがとうございました。

常盤高校 2年女子

私は好きな洋画を通して、海外に興味を持ち英語を学びたいと思いました。この派遣事業では、観光によってアメリカのことを知るだけでなくホームステイによって食生活や宗教、考え方の違いを学ぶことで映画では見えないリアルタイムのアメリカを知れることに魅力を感じ、今回この派遣事業に参加しました。また、私は9年間書道を習っていたので、機会があればぜひ実際に筆で書いた書を紹介したいと思っていました。

私たちが訪れたラファイエットはインディアナ州にあり、緯度が東北と同じで乾燥しているので比較的涼しく過ごしやすい気候です。また、日が沈むのがとても遅く22時に日本でいう夕日が見られます。周りに高い建物がないため空の広がりを感じられ、とてもきれいな夕日でした。家に帰る道の途中には背の高いとうもろこし畑があり、穏やかな街という印象が強かったです。

私のホストファミリーはホストファザー、ホストマザー、ホストマザーのお父さん、そして孫の4歳の男の子の4人でした。ホストマザーの作るディナーには、スペアリブや自分でつくるハンバーガー、ラザニアなど私が日常的にあまり食べない物が多かったので毎日何が食べられるのか楽しみでした。私の一番のお気に入りには果物が入ったパイにアイスクリームをのせたデザートです。ディナーの前には皆で手をつなぎお祈りをしました。宗教の違いを感じられる貴重な体験でした。日曜日には、ホストファミリーの家に近所の人が50人ほど集まり歌を歌い、聖書を読みました。教会の役割を一般の家が果たすことがあり、教会が近くにならないところではこういうことがあるそうです。今まで知らなかったのでもとても驚きました。

この滞在で特に印象的だった事は、映画を観に行ったことと高校に行ったことです。映画は、アメリカに行く前にホストファミリーとメールでやり取りをしていた時に映画館で映画を観よう、という話がでた時から楽しみにしていました。運よく好きな映画を観られました。もちろんのこと字幕はついていないので少し不安はありましたが普通に楽しめて、ある程度理解する事ができたので英語の自信にもつながりました。映画館での日本との違いはまず、座る席が決まっていなことです。また、映画の途中でホストファザーが携帯のメッセージを確認しだしたことには驚きました。

高校には2日間行きました。生徒が2千人いる大きい高校でした。それぞれのホームルームはなく、授業ごとに教室が変わるので休み時間は廊下がとても混雑しました。興味深かったのは教室の形態です。先生によって全て机の配置が異なっていたのです。日本語の先生に聞くと人数の関係だと言っていました。ただ、日本のように列になって座っているところは一回も見ませんでした。コの字型で先生を囲んだり、中央で向かい合っていたりと多様で授業がしやすい様工夫がされていました。また、全員がタブレットをもち、教科書を使う授業がほとんどなくノートも持っていませんでした。私のバディはピアノや写真などの面白い授業をとっていました。日本語の授業もとっていたので、彼女と日本語で話すこともありました。日本に興味を持ってくれていたのでもうれしかったです。私は日本のことを伝えるのに絵を描きました。筆ペンを使って桜と富士、竹を描き、プレゼントするととても喜んでもらえました。春と夏だったので、秋と冬も描いて送るつもりです。

今回の派遣事業でたくさんの人と出会い、たくさんの方の考えに触れたことで日々の生活がいかに狭い世界だったか気付きました。これから日本にはもっと外国人が増えると思います。その時には、この経験を活かし何か力になればいいです。

お互いに理解する事が大切ですが、そのためにはまだまだ知らなければいけない事があるのに気付きました。この経験を励みに勉強を続けたいです。